

～ 特集：知覧武家屋敷の門松 ～

お正月には家の門に門松をたてますが、武家屋敷群にいくと、昔ながらの門松を見ることができます。それは、正月～21日までの間、三段階にカタチを変えるのです。今年ミュージアム知覧でも、高城幸さん(高城庵主人)のご指導により、この門松をたてました。

12/28夕方～1/6夕方

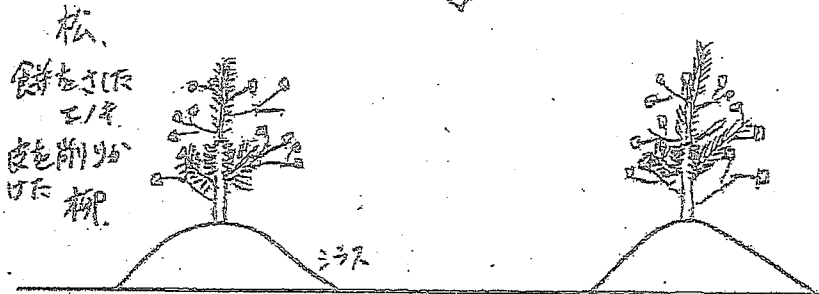
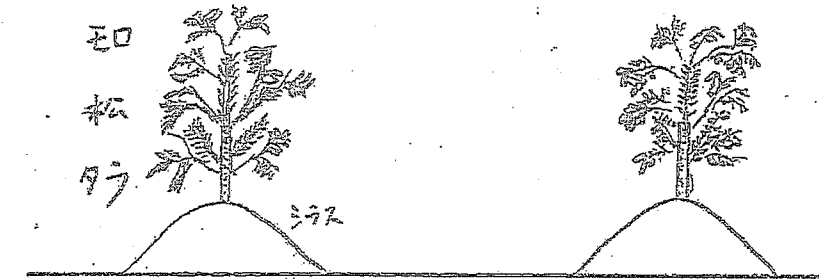
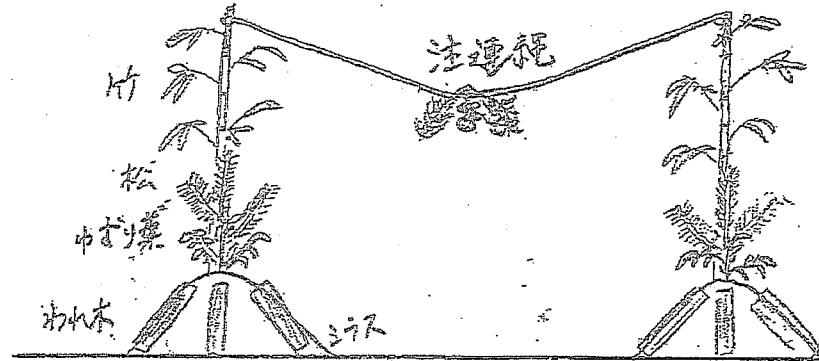
円錐状に盛ったシラスに、笹のついたままの竹や、松・ゆずり葉をたてて、竹に注連縄(しめなわ)をくります。シラスには、薪を3本円錐状に置きます。
⇒ 薪を置くのは、「今年もそこに根付いていられるように」、あるいは「三度三度食べられるように」という意味があると考えられています。

1/6夕方～1/13夕方

注連縄や竹、ゆずり葉を取り除いて、松と、「タラの木」と「モロの木」をたてます。
⇒ タラとモロを飾るのは、「今年一年タラン時にはモロいなさい(助け合い)」という意味があるようです。

1/13夕方～1/20夕方

タラとモロを取り除き、松と、柳の木と、エノキの枝にサイコロ状の餅をさしたものをたてます。柳の木は、上の方の皮を削りかけにします。餅は白餅と、栗を混ぜた黄色い餅の二種類です。
⇒ 柳の皮を削りかけにするのは、御幣(神社の祭具)を表し、エノキの枝に餅をさすのは五穀豊穡を表すと考えられています。



Event (12～1月)>